

部局名

農学部フィールド科学教育研究センター(住吉)

担当:石垣 元気

テーマ

生産現場から見た“新しい牧草”の形とは



住吉フィールドでは、肉用牛、乳牛、豚を飼養管理していて、宮大Beef、宮大Milkなどの宮大ブランドとして生産販売をしています。家畜に必要な飼料（牧草やトウモロコシ）は自給生産しています。

フィールドに出ることで、いろいろなことに気づかされます。牧草と雑草の競合、収量性、収穫した牧草の乾燥速度、栄養価、消化性などの特性は、牧草の種類によって違ってきます。これらの特性を調査することは、“新しい牧草”を創る上で大事なことです。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-fsce/post-30.html>



牧草の播種後7日目の様子

牧草の発芽個体の他にも雑草の埋土種子からの発芽個体が見えるのがわかる。この時から、牧草と雑草の競合が始まっている。



牧草を反転している様子

反転されている牧草の下には刈取り後の株があり、トラクターのタイヤによる踏圧ストレスを受けている。



牧草を乾燥させている様子

晴天で気温が高いとすぐ乾き、曇りで気温が低いと乾きにくくなる。洗濯物と一緒にだね。

